

お歳暮みゅーじかる

## 涙で頬が傷だらけ

配役 男性9人 女性7人

男性 コトブキ・清

犬・青年

犬A・おじいさん・社員（山田）

犬B・内藤社長

犬P（ポチ）・泥棒1・社員（小峰）

犬D・泥棒2・社員（高橋）

犬E・泥棒3・社員（榎本）

犬F・蕎麦屋の主人・若い男（彼氏）

オオカミノワシタクロースノミコト

女性 フク・貴子

犬イ・おばあさん

犬ロ・蕎麦屋の娘（加奈）・社員（猪熊）

犬ハ・花屋（チヨ）・従業員（ふみ）

犬ニ・酒屋（ハル）・社員（阿久津）

犬ホ・ケーキ屋（ヤスエ）・内藤夫人

犬ヘ・毛糸屋（節子）

挿入歌（\*は元歌）

- 1 「さみしいこの夜」（\*きよしこの夜）  
「ついにこの日がやってきた！」（\*サンタが街にやってきた&お正月）  
「人間になりたい」  
「オオカミの子の名のもとに」（\*メサイア「ハレルヤ」）  
「コトブキとフクのテーマ」  
「嫁来い唄」
- 2 「ひとり鍋」（\*マルセリーノの歌）  
「生きていればきつと」  
「泥棒ドリーム」
- 3 「コトブキとフクのテーマ」
- 4 「お嫁さんブルース」  
「愛だ恋だは商売の次」
- 5 「にっちもさっちも」  
（\*アイネ・クライネ・ナハトムジーク「ロマンス」&カノン）
- 6 「嘆きの子守唄」（\*竹田の子守唄&こきりこ）  
「見ているからね」
- 7 「帰れ犬コロへ」（\*帰れソレントへ）  
「手酌エレジー」（\*きよしこの夜）  
「小さな祈り」
- 8 「コトブキとフクのテーマ」  
「ひとつ屋根の下」（\*スケーターズ・ワルツ）  
「涙で頬が傷だらけ」
- 9
- 10
- 11

星がひとつきり輝く夜空の下、青年がひとりさびしく歌う。

《さみしいこの夜》

さみしいこの夜

星はひとり

ぼくもひとりぼっち

寒くて腹ぺこだ

せめて誰かと

いっしょにいたい

にぎやかな音楽と共に、バタバタと犬たちが集まってくる。  
あわてて物陰に隠れる青年。

青年には気づかず、期待にあふれて歌い出す犬たち。

《ついにこの日がやってきた！》

いち に さん し ご ろく しち

はち きゅう じゅう じゅういち 十二月

待ちに待った十二月

子 丑 寅 卯 辰

巳 午 未 申 酉 戌！

待ちに待った戌の日

年の最後の 戌の日は

ぼくらの神様 ワンタさん  
ひとつお願い きいてくれる  
はやく来い来い ワンタさん

今年は何にを お願いしよう  
去年はおいしい 骨をたくさん

犬の神様 ワンタさん

正式なお名前は

オオカミノワンタクロースノミコト

オオカミノワンタクロースノミコト

でも めんどくさいから ワンタさん

興奮覚めやらぬ犬たちの様子を、青年はこっそり覗いている。

犬 A 同志諸君！ いよいよ今年も最後の戌の日がやってきました！

「おーっ！」と氣勢を上げる犬たち。

犬へ 飼主の目はうまくごまかせたかな？

「おーっ！」と再び氣勢を上げる犬たち。

犬 R それではこれから、ワンタさんへのお願い事を決めましょう！

犬 E おいしいものがほしい！

犬 D 肉だ！

犬 F 骨だ！

犬 H 自動車をなくしてほしい！

犬ハ やだ！ ドライブ好きだもん！  
犬E タマネギを食べてみたい！  
犬P よせよ、病気になるっちゃうぞ？  
犬E そうなの？  
犬へ 今年も骨で決まり！  
犬イ 豚骨が食べたい！  
犬F 牛骨が食べたい！  
青年 犬になりたい！

一瞬の沈黙。

犬D ……やっぱり肉だよ。  
犬口 毎年、骨だもんね。  
犬F 骨よりいいものなんてないだろ。  
犬E タマネギ、ダメかなあ……。  
犬P あれは毒なんだった！  
犬E そうなの？

無視された青年、とぼとぼと去る。

犬D 肉がいいよー！  
犬へ たまにはいいんじゃない？  
犬F いいや！ 骨にまさるものなし！  
犬B いいかげんにしなさい。

犬たち、声の方に注目。

そこには落ち着き払った様子の年長の犬B。

犬イ チャップピーさん……。

犬B 毎年、最後の戌の日に、ワンタさんが願いを叶えてくれるのはなぜだかわかるか？

「わからない」「なぜだ？」「知らない」「なぜだろう？」と騒ぎ出す犬たち。

犬B 人間の忠実なよき友として、一年間がんばった我々をねぎらったのとだろう？

犬P そうなのか……。

犬F 知らなかった……。

犬B そのお心遣いを謙虚な気持ちで受けとめるべきなんだ。それが誇り高い我ら犬族いぬにふさわしい態度だよ。人間たちをござらん。この時期になると、パーティーだ、プレゼントだとさんざんはしゃいだ挙句、酔っ払って我々のテリトリーに寝転がる……。 (怒りが込み上げてきて) 神様の誕生日にかこつけて、お祭り騒ぎがしたいだけじゃないか！

犬へ (小声で) 去年、酔っ払いに蹴飛ばされたんだって。

犬B (咳払いをひとつして、気を取り直し) しかし、我々は違う。いにしえより我らをお守りくださるワンタさんに感謝するんだ。そして仲間同志が助け合い、よりよい日々を過ごせるように、新たな気持ちで祈る。今日はそういう特別な日なんだよ。

犬に ……よし！ 今年の願い事はコトブキとフクちゃんに譲ろう！

犬ホ 賛成！ そうしよう！

犬二 (周囲の軽いどよめきなどまったく気にせず、コトブキとフクに) 遠慮することないよ！ あんたたち、ご主人様を亡くしたばかりなんだから。

犬ホ ひどい事故だったよね。夫婦そろって気の毒に。

犬ハ コトブキとフクちゃんもかわいそう。

犬二 住むところだってないんでしょ？ 保健所がすぐ追ってくるよ？ 新

しいご主人を見つけてもらいな。

犬ホ そうそう！ お金持ちで優しくて、広い庭を持つてる人をね！

犬B よし。それではこれからみんなの意見を……

犬二 （犬Bの声をまるで聞かず）いいよね！ みんな！

犬ハ 困ってる仲間を放っておけないよね！

犬ホ 当たり前じゃない！ 相談するだけ時間の無駄だよ！

犬P （コトブキの肩を叩き）……あいつらが言い出したら、決まったも同

じだよ……。

フク ……本当にいいの？

犬二 犬に二言にごんはない！

犬たち ワン！

コトブキ ……それなら……それなら……。

顔を見合わせるコトブキとフク、思いきって歌い出す。

《人間になりたい》

人間になりたい

人間になりたい

大好きだった ご主人様と

すっかり同じ 姿形に

フク ずっとじゃなくていいんだ。今年いっぱい、掃除のお仕事が片付けられるまで。

コトブキ 予約が五つも入ってるんだよ。（十二月のカレンダーを一枚取出し、予定を指差しながら）明日が商店街の集会所、明後日が印刷屋さん、その次が別の印刷屋さん、最後が三十日で……（声がつまる）このカレンダー、

お家の匂いがする……。

犬口 つまり、ご主人様の代わりに働こうってわけね？

コトブキとフク、大きく頷いて歌う。

優しかった二人に

せめてもの恩返し

新しいご主人 見つける前に

せいっぱいの 感謝を込めて

その心意気に打たれた犬たち、二匹の思いに応えて歌う。

人間になりたい（そこまで言うのなら）

人間になりたい（そこまで言うのなら）

大好きだった ご主人様に（あいやわかった 応援しよう）

除夜の鐘まで 鐘の鳴るまで（今年のお願い それに決めよう）

今年のお願い それに決めよう

コトブキ みんなありがとう。

犬E でもさ、ワンタさん、そんなことできるのかなあ。

ワンタ （犬たちの中から）できるよ。

みんなが声の主を見る。そこには、ずた袋をかついだ最も薄汚れた犬。

犬たち （ギョツとして）ワンタさん！

犬たち全員、あわてて仰向けに腹を見せて、服従のポーズ。



犬たち たいへん失礼いたしました！

ワンタ 毎年言ってるけどさあ、絶対服従のそのポーズで出迎えるのやめてよね。おなか見せられても恥ずかしいだけなの。ほら起きて起きて。

犬イ いつからいらしたんですか？

ワンタ 最初っからだよ。あたしの歌声聞いてなかったの？（ひと声歌ってみせて）♪人間になりたいー♪（コトブキとフクに）人間になりたいのね？

コトブキ・フク はい！

ワンタ んじゃとつととやっちゃいましょうか。（と、袋の中をござそと探りだす）

コトブキ あの……人間になるのは僕らが初めてでしようか？

ワンタ いや、前にも一匹変身させたことがあるよ。飼主のたつての希望だね。人間の願い事はあたしの担当じゃないんだけど、落とし物を拾ってもらったお礼にさ。……あれ？ ない、ないぞ？ どうしよう、また落っこしちやっただか？ ちよつとその辺、探してくれる？

犬へ なにをお探しなんですか？

ワンタ 棒だよ、棒！ 願い事を叶える棒！

あわてて辺りを探し始める犬たち。

犬F （ワンタに）あの……お背中にさきっているそれは……。

ワンタ ん？（背中の棒を手に取り）そうだ、大事なものだから、背中にくっつけといたんだった。あーよかった。（気持ちを整え、突然、威厳に満ちて）さて。迷える私の仔犬たちよ。オオカミの子の名のもとに、今宵も願いを叶えてしんぜようぞ

ワンタさん、大きくタクトを振る。

《オオカミの子の名のもとに》

天には 届かぬ 願いを 今こそ かなえるワン  
我らが 同志の 切なる 思いを 果たせるワン

オオカミの子の名のもとに なせるワン  
亡きあるじの その姿に 変えるワン

無邪気な友の 無事を祈らん  
その行く手は 七面倒くさい 人間社会  
二本足で踏み堪えよ

犬から 変わるワン 変わるワン  
人間に 化けるワン 化けるワン  
人間に 変わるワン 変わるワン  
人間に 変わるワン 変わるワン

さて どうなるやら

歌が終わると、二匹の姿はそれぞれ飼主の清と貴子に変わっている。

ワンタ 上出来上出来。じゃあねー。(と、さっさと退場)

コトブキ・フク ありがとうございます！

犬P おれたちもそろそろ行くわ。

犬ハ がんばってね。

犬ホ 困った時はいつでも呼んでね。

犬二 助けに行くからね。

犬B 健闘を祈る。

フク みんな、ありがとう！

コトブキ 本当にありがとう！

次々に励ましの言葉を口にしながら帰って行く仲間たちを見送るコトブキとフク。

やがて二人きりになると、お互いの姿をじっと見つめ合う。

フク 清さん！（お座りのポーズ）

コトブキ 貴子さーん！（仰向けに腹を見せて服従のポーズ）

フク やめてよ、コトブキ！ 服従する清さんなん見たくない。

コトブキ フクちゃんこそ、貴子さんのくせにお座りしてる。

フク 思いきってお願いしてよかったね。

コトブキ やさしい仲間を持って幸せだね。

フク これでニコニコハウスクリーニングの看板に傷をつけなくてすむよ。

コトブキ ……フクちゃん、もつとよく顔を見せて。

フク （顔を突き出し）ほら！

コトブキ （しみじみと）僕ね、貴子さんの顔、じっくり見ないようにしてたんだ。なにかつらいことがあった時の楽しみにとっておこうと思って…

…。

フク バカだねえ、コトブキ。あたしなんて見られるだけ見たし、嗅げるだけ嗅いでたよ。

コトブキ 僕もそうすればよかった…。

フク それでも足りないくらいなのにさ。

コトブキ （自分の顔を触りながら）清さんの顔も見たいなあ…。

フク そんなことより仕事だよ！ よーし、がんばるぞ！

コトブキ 怖い人がいませんように。

フク ほら、行こう！

コトブキ・フク いざ、人間の世界へ！

その声を合図に、後の場に登場する人物たちが一斉に涌き出るように現れ、それぞれ自分たちの日常を抱えながら通りすぎてゆく。おしゃべりする商店街のおかみさんたち三人の後ろを、編物をしながらついてゆく糸屋のお嫁さん。なにやらもめている蕎麦屋の主人と娘。ぼんやりとさびしげな占い師のおばあさんの後を、恥ずかしげにそつと追うおじいさん。がつくりと肩を落とし、とぼとぼと歩く内藤印刷の社長。内緒話をしている泥棒トリオ。泥棒の一人が食べかけのパンを道端に捨てると、青年が急いでそれを拾い、貪り食う。その人波にもまれながら歌うコトブキとフク。

《コトブキとフクのテーマ》

なんとかなるよね 大丈夫だよ

犬も歩けば 棒にも当たる

ついてないことだってあるけど

いっしょにいるから 大丈夫だよ

コトブキとフクの前を、青年がすごいスピードで走り抜ける。

蕎麦屋の声 食い逃げだ！ 捕まえてくれ！

その声に、反射的に四つ足で青年を追って行くコトブキとフク。

フク (追いながら) なにこれー！

コトブキ 走りにくいー！

麵打ち棒を手に息も切れ切れで追いかけてきた蕎麦屋の主人、二人の様子を訝しげに見送る。そのすぐ後には蕎麦屋の娘、加奈。

加奈　ねえ、お父さんてば！

父　おまえがごちゃごちゃ言うから、逃がしちまったじゃねえか。

加奈　一度、彼に会ってほしいの。

父　俺は会いたくねえって言うてんだ。

加奈　すごくいい人よ。お蕎麦も大好きだし、お父さんとは気が合うと思う。

父　会社勤めの若造なんかと気が合うわけねえだろ！

そこへおばあさんが現れる。

おばあさん　あの、お勘定を……。

父　すいませんね、店、ほっぽらかしちまって。

おばあさん　（財布からお金を出し）これ、あの若い方の分も一緒に。

父　そいつはいけませんよ、たまたま相席をお願いしただけだつてのに。

おばあさん　いいんですよ。楽しくお話させてもらいましたから。どうもご

ちそうさま。（退場）

父　……ありがとうございます。……まいったね、どうも。（娘に）おまえも暮れの忙しい時分にいつまでもくだらねえこと言うてんじゃねえぞ。（と

退場）

加奈　お父さん！

コトブキとフクが戻ってくる。

コトブキ　逃がしちやったね。

フク　貴子さん、足、遅いんだもん。

加奈　すみません、食い逃げの件は解決したんです。ご親切にありがとうございます。ご迷惑をありがとうございました。

フク　（コトブキに）じゃあ行くかうか。集会所ってどっち？

コトブキ その前に、僕、訊きたいことが……。

加奈 集会所って商店街の？ あたしも今から行くところだからご一緒しましょう。

フク ありがとうございます。

加奈、二人を連れて退場。

青年が、そっと引き返してくる。

みんなが去った方をぼんやりと眺めてから、再び小走りで逃げるように退場。

## 2

池之端商店街の集会所。

商店街婦人部「弁天会」の四人が歳末セール用の飾り作りをしている。酒屋のハル、花屋のチヨ、ケーキ屋のヤスエのおかみさんトリオ（三婆）が雑談をしているかたわらで、毛糸屋のお嫁さん・節子は三人の目を盗んで編物の内職をしている。

ハル なんかさ、日本中が不景気とか言ってるけど、ほんとなのかね。

ヤスエ どうだかねえ。うち、年賀状余ってんだけど買わない？

チヨ そう言えば、ゴミの回収って何日までだっけー？

ハル 不景気なのはうちの商店街だけなんじゃないの？

ヤスエ 今年はやけに喪中の人が多いのよ。

チヨ 去年、うっかり出し忘れてひどい目にあっちゃったー。

ヤスエ ほんとよ。だったら年賀状減らしてその分、宝くじ買えば良かった。

ハル 三丁目の山田さんなんて、正月は家族でグアムだっけさ。

チヨ 温泉行きたいわー。花屋ってほんと肉体労働よー。若い子でも雇え

ればいいんだけど。

ハル 大体、最近の若い子は飲まないよね。飲んでも発泡酒だの焼酎だの安い酒ばかり。

ヤスエ 焼酎は体にいいんだってね。血がサラサラになるってお昼の番組で言ってた。

チヨ 今日お昼、なに食べたー？

ハル それより今晚なに作ろう。

ヤスエ 焼酎ケーキなんて作ったら売れるかしら。

ハル 生ゴミになるだけじゃない？

チヨ そうよー、ゴミの回収っていつまでー？

ヤスエ いけない！ 回覧版回すの忘れてた！

ハル (手を休め) あー目がチカチカする。

ヤスエ ちょっと休憩する？ うちの新品持ってきたから。

ハル まさか「びっくりシュークリーム」？

ヤスエ 当たり。

ハル シュークリームの中に苺大福が入ってんでしょ？

チヨ 確かにびっくりはするわよねー。

ハル 売れてんの？

ヤスエ 売れてたら持ってきやしないわよ。

チヨ 勝ちゃん、自信作だと言ってたのにー。

ヤスエ 店継がせたの失敗だったかしら。

ハル マー坊、いくつになった？

ヤスエ もう三十五！

チヨ お嫁さんまだー？

ヤスエ お嫁さんどころか彼女もないのよ。

チヨ うちもよー。

ハル うちのもだよ。

ヤスエ 誰かいい人いないかしら。

ハル 節子さん、あんたの友達で余ってんのいない？

節子 (あわてて編物を隠し) え！ あ、あの大福餅とカスタードクリーム  
のミスマッチがたまりませんよね！

ヤスエ ……人の話、ちゃんと聞いてる？

チヨ 節子さんて、かなりマイペースよねー。

ハル 言葉のキャッチボールを大事にしないんだよ。最近の若い人は。

節子 ……すみません。(毛糸玉が転がり出る)

ヤスエ あ！ 内職してる！

チヨ ちよっとー、どういうつもりー？

節子 クリスマスセール用のセーターが間に合わなくて、作業の間にちよこ  
つと…。

ヤスエ この時期忙しいのは毛糸屋だけじゃないのよ！

チヨ そうよー！

ヤスエ おハルさんだってチヨちゃんだって、忙しいお店抜け出してきてん  
のよ？

チヨ ヤッちゃんのケーキ屋なんて、クリスマスにがんばらないと年が越せ  
ないのよー？

ヤスエ 余計なこと言わないでよ、チヨちゃん。

チヨ あらー、心配してんよ、あたし。

ハル (節子に) あんたもさあ、この商店街に嫁に来てもうずいぶんになる  
んだから、もうちよっと協調性をもってもらわないと。

節子 ……私、別に商店街と結婚したわけじゃあ…。

そこへ加奈がコトブキとフクを連れて現れる。

加奈 ごめんなさい、遅くなっちゃって。

チヨ あらー加奈ちゃん。

加奈 花飾り、もう作っちゃいました？



ヤスエ あらかたね。

ハル (コトブキとフクを見て) そちらさんは？

コトブキ・フク ニコニコハウスクリーニングです！

加奈 お掃除の人だって。

フク お客様第一がモットーです！

コトブキ よろしくお願いします！

ハル 元気がいいのは結構だけど……なんかの間違いじゃないの？

コトブキ 池之端商店街婦人部「弁天会」様から集会所のお掃除承りました！

チヨ 誰が頼んだのー？

節子 あら？ ……私……だったかな？

フク ありがとうございます！

ヤスエ ちよつと節子さん！

ハル ここの掃除は当番制だろ！

コトブキ お客様第一がモットーです！

ハル わかったから、少し黙つといで！

コトブキ はい……。

節子 あの、弁天会の予備費が余ってたもんですから、年末くらいは業者さんに頼むのもいいかなあと……。みなさんお忙しいですし。

ヤスエ 予備費なんだから余ってていいのよ！

チヨ なんの断りもなく大胆ねー。

フク (コトブキに) いいからやっちゃおうよ。

ハル (飾りをいじり始めようとするコトブキとフクを見て) 勝手に始めるんじゃないよ。

ヤスエ 今日の掃除当番、節子さんじゃないの？

ハル (節子に) 自分がラクしたいだけか！

節子 (あわてて当番表を見せて) 違いますよ！ ほら、お当番表！ (と必死に三婆たちに訴える)

コトブキ どうするフクちゃん、いきなり怖い人にあたっちゃった。

フク 優しそうな人に聞いてみようか。(加奈に) お掃除、ダメですか？

コトブキ (加奈に) うんとサービスしますから。

加奈 ……(すがるような目の二人に同情して) ハルさん、ヤスエさん、今回だけは特別にお願いしましょうよ。うんとサービスしてくれるって言うし、いいでしょ？ チヨさんも、ね？

チヨ うーん、その代わりに加奈ちゃん、うちのお嫁さんになってくれるー？  
加奈 それはちよつと……。

ハル わかったよ！(コトブキとフクに) じゃとりあえずその飾り、あつちにまとめとくれ。

コトブキ・フク ありがとうございます！

チヨ あたしたちはひと休みねー。

節子 (こつそりと) 加奈ちゃん、ありがと。今度遅れて来る時は前もって知らせて？ 一人で三婆の相手はさすがにきついわ。

ハル 聞こえたよ。

ヤスエ 三婆だつて？

チヨ ひどーい。

節子 いやだ、三婆だなんて滅相もない。「お三方」さんかたって言ったんですよ？

ヤスエ あら、そーお。じゃ、その「お三方」にお茶！

節子 はい、ただいま！

コトブキ これ、きれいだね、フクちゃん。

フク 見て見て！ この玉、面白いよ！

コトブキとフクはもの珍しげに飾りをいじったり、毛糸玉をみつけて転がしたりし始める。

ハル それで加奈ちゃん、お父さん、なんだつて？

加奈 全然だめ。話も聞いてくれないの。

チヨ いわお 巖さん、頑固だもんねー。

ヤスエ 一人娘にお蕎麦屋継いでほしいのよ。

ハル 親孝行だと思つてさ、いつそ別れちゃえば？

加奈 そんなあ。

節子 ね、加奈ちゃん。健二さんなんてどう？ 知ってるでしょ？ うちの

ダンナの弟。ああ見えてなかなかいいところもあるのよ？ どこがいいと

は今、言えないけど。

加奈 味方してくれないの？

節子 あたしだって味方がほしいのよ！

ハル 地元で手を打ちなよ。

ヤスエ ケーキ食べ放題だよ？

チヨ お父さんも喜ぶわよー。

弁天会の四人 いいからお嫁にいらつしやい！（と歌い始める）

頭を抱える加奈。

一方のコトブキとフクは、飾りと毛糸を使ってオブジェのようなものを作る遊びに夢中。

《嫁来い唄》

四人

お嫁に欲しい あの娘こが欲しい

あの娘が欲しい

気立てが良くて 働き者の

商店街の看板娘

ハル

うちの猛たけしはもうすぐ四十。

気は優しくて 力持ち

あたしによく似た男前だよ

酒は売るより飲むのが得意

ヤスエ

うちの勝は孝行息子  
お菓子作りに命をかける  
研究熱心はいいけれど  
センスゼロなのが玉にキズ

チヨ

うちの洋介 引きこもり  
彼女いない歴 三十二年  
それでも生け花は免許皆伝  
とても繊細な芸術家

節子

義理の弟 健二さん  
編物上手の変わり者  
家事にはうるさい まるで小姑  
時々スカートはいている

四人

お嫁においで いいからおいで  
悪いようにはしないから

加奈

みんなの気持ちはうれしいけれど  
商店街は好きだけど  
心に決めたあの人がいるの  
一生ついていきたいの

四人

CLOSE YOUR EYES  
CLOSE YOUR EYES  
細かいことには さあ目をつぶって  
CLOSE YOUR EYES

CLOSE YOUR EYES

お嫁においで　いいからおいで  
悪いようにはしないから

ハル　（ふと、コトブキとフクを見て）こら！　なにやってんだ！

全員がコトブキとフクを見ると、そこには大きなオブジェが完成して  
いる。

フク　まずい。

ハル　掃除屋じゃないのか、あんたたちは！

ヤスエ　（節子に）こんな人たち、どこから探してきたのよ

コトブキ　怒ってる？　みんな怒ってる？

フク　あの二人は間違いなく怒ってるよ。

コトブキ　ぶたれるかなあ？（縮こまる）

チヨ　（オブジェに近寄り）ねーえ、でもこれ、なかなか素敵じゃない？

節子　（大げさに）ほんと！　すぐく素敵！　このチープな中に垣間見える

いじらしい華やかさが、この商店街にぴったり！

ハル　なに言ってるんだよ、あんたは！

加奈　あたしもいいと思う。これ、歳末セールの時、アーケードの入り口に  
飾ってみませんか？　若いお客さんが増えるかも。

フク　コトブキ、目、あけていいよ。優しい人がなんとかしてくれそう。

ヤスエ　そうねえ、若い加奈ちゃんがいいって言うなら、そうしてみる？

チヨ　ああ、最初にいいって言ったの、あたしよー？

ハル　そうと決まればとっとと運んじやおう。

三婆　節子さん！

節子　……はい。

節子、苦勞しながらオブジェを運び始める。  
三婆はさっさと帰り支度を整え、次々に退場。

ヤスエ それじゃ加奈ちゃん、誰と結婚するか決まったら教えて！

ハル いい返事待ってるよ！

チヨ 誰が選ばれても恨みっこなしねー。

節子 忘れないで加奈ちゃん！ 健二さんは次男なのよ！

加奈 （四人の去っていった方に）あたしは彼と結婚するの！（ため息）

フク あの……すみませんでした。

コトブキ すみませんでした。

加奈 気にしないでください。面白いもの作ってもらってよかった。お世話様でした。

コトブキ （帰ろうとする加奈に）あの……！！

加奈 ？

コトブキ ……結婚、おめでとうございます。

フク おめでとうございます。

加奈 ……そう言ってくれるのは、あなたたちだけです……。

さびしく帰っていく加奈。

かける言葉もなく見送るコトブキとフク。

フク ……初仕事、失敗かなあ……。

コトブキ ……だね……。

### 3

おばあさんが現れ、辻占いの準備を始めながら歌う。

《ひとり鍋》

白菜　しいたけ　おネギ　お豆腐

くずきり　えのきだけ　少し鶏肉

春菊もいいわね　ニラはどうかしら

やがて「手相占い・百円」と書かれた小さな箱を前に座るおばあさん。

その様子を覗き見ていたおじいさん、髪をなでつけたり、口臭を確かめたりした後、おばあさんに声をかける。

おじいさん　（精一杯気取って）よろしいですか？

おばあさん　いらっしやいませ。では、お手を。

おじいさん　（ズボンで激しく拭いてから手を差し出す）お願いします。

おばあさん　（じっと手を眺めながら）ずいぶん、つらい目に遭われたんですね。

すね。

おじいさん　当たってます！

おばあさん　でも、近いうちにきつといいことがありますよ。

おじいさん　本当ですか！

おばあさん　ええ。（顔を上げる）

見つめ合う二人。

おばあさん　……百円です。

おじいさん　（はっと我にかえり）ずいぶんお安いですね。（百円払う）

おばあさん　ありがとうございます。

がっくりと肩を落した男、内藤が現れる。

内藤 ……百円でいいんですか？

おばあさん ええ。どうぞ。

おじいさん あ、では私はこれで……。 (名残惜しそうに去って行く)

おばあさん では、お手を。(じっと内藤の手を眺め) ずいぶん、つらい目に遭われたんですね。

内藤 そうなんです……。

おばあさん でも、近いうちにきつといいことがありますよ。

内藤 ……本当ですか？

おばあさん ええ。

内藤 なにもかも解決するでしょうか？

おばあさん ええ、多分……。

内藤 (百円を置き) ありがとうございます……。 (ため息をついて去って行く)

おばあさん (心配そうに見送りながら) こちらこそ……。

そこへ通りかかるコトブキとフク。

フク こんにちは。

おばあさん はい、こんにちは。

コトブキ なにしてるんですか？

おばあさん 占いよ。

コトブキ 占いつて？

おばあさん みんなの過去や未来を見ているの。

フク あたしのも見てください。

おばあさん どれどれ。(フクの手を眺める) ……これはまた……変わった手相ねえ。

コトブキ どうですか？



おばあさん ずいぶん、つらい思いをしたのね。

フク (コトブキに) 当たってる！

おばあさん でも、近いうちにきつといいことがあるわよ。

フク いいことがあるって！

コトブキ よかったね！

フク ありがとう！ おばあさん！

上機嫌で去って行くコトブキとフク。

おばあさん (見送りながら) あのこたち……。

その様子を遠巻きに眺めている三人組の泥棒と青年。

泥棒 1 カモじゃないか？

泥棒 2 そうだな。

泥棒 3 (青年に) おまえ行け。

青年 どこへ？

泥棒 3 あのばあさんのバッグ、ひったくってくるんだよ！

青年 (おばあさんを見て) ……ダメだよ。

泥棒 2 ああ？

青年 あの人、親切にしてくれたんだ。

泥棒 3 なに言ってるんだ、おまえ？

青年 忘れられないんだよ。親切にされたことって。

泥棒 1 誰だよ、こんなの仲間に入れた奴！

泥棒 2 (泥棒 1 に) おまえだろ？

泥棒 3 もういい！ 俺が行くよ。

泥棒 1 (遠くを指差し) 待って！ あっちのがいいじゃない？

泥棒 2 今、銀行から出てきた女か！

泥棒3 よし、追っかけるぞ！

泥棒1 (青年に) ほら、もたもたすんなよ！

青年、おばあさんのことを少し気にしながらも、泥棒たちの後を追って退場。

おばあさん ……さて、お買物に行きましょう。

ゆつくりと店じまいをするおばあさん。

泥棒たちと入替わりに現れた犬たち、ロ、ニ、へ。そんなおばあさんをそつと見守っている。

《ひとり鍋》

おばあさん 白菜 しいたけ おネギ お豆腐

くずきり えのきだけ 少し鶏肉

それから ポン酢も切らしていたわ

犬たち 寄せ鍋 水炊き おでん きりたんぼ

ひとりで 鍋つき はや五十年

自分の未来は 怖くて占えず

犬たちのスキヤットに送られ、おばあさん退場。

小さな印刷工場、内藤印刷にやってきたコトブキとフク。

コトブキ ここだよ、内藤印刷。

フク 今度こそ、しっかりお仕事しようね！ このままじゃ、なんのために清さんと貴子さんにしてもらったんだかわからないよ。

コトブキ がんばらなくちゃね。……ところでさ、僕、訊きたいことがあるんだけど……。

そこへあわてた様子で犬P（ポチ）が現れる。

ポチ コトブキ！ フクちゃん！

フク あれ？ ポチ。

コトブキ 内藤印刷ってポチの家だったんだ。

ポチ いいところに来てくれたよ。助けてくれ！

フク どうしたの？

ポチ ご主人が死んじゃう！

コトブキ・フク ええっ！

ポチ 生命保険とやらで借金を返すんだって。

コトブキ （深刻そうに）セイメイホケン……（フクに）てなに？

フク 盲動犬とか番犬みたいなもんじゃない？

コトブキ 人間の役に立つ犬だ。

フク だからお金を返してくれるんだよ。

コトブキ でもそれなら死ぬことないよね？

フク わかった！ お金を返す代わりに人間を食べちゃうんだ！

コトブキ （恐怖に引きつり）そんな犬がいるの？

ポチ よくわかんないけど、とにかくご主人は死ぬつもりなんだ！ なんと

か二人で説得してくれよ！（と二人にとりすがる）

そこへ内藤社長が現れる。

内藤 こらこらポチ、お客さんに飛びついちゃダメだろう。ニコニコクリーニングさん？

フク ニコニコハウスクリーニングです！

コトブキ お客様第一がモットーです！

内藤 汚いところですがよろしくお願いします。（奥に向かって）おーい、お掃除の方、おみえになったよ！

「はーい」という声と共に、内藤夫人と、従業員のふみが現れ、コトブキとフクに会釈をする。二人とも疲れきった浮かない表情。

夫人 ほら、ポチ。お邪魔になるからあっちへ行ってらっしゃい。

ふみ いいじゃありませんか奥さん、ポチもこの工場がなくなるのは寂しいんですよ。

内藤 ポチはここで育ったみたいなものだからな……。

コトブキ ここ、なくなっちゃうんですか？

内藤 ええ……。お恥ずかしい話ですが、あてにしていた大口の注文がキャンセルになりましたね……。不渡りを出さざるをえんです……。

フク （こっそりコトブキに）フワタリって？

コトブキ なんか怖いものじゃない？

夫人 それで工場をたたむ前に、プロの方にきちんとお掃除してもらおうかって……。て……。

ふみ ……社長！ あたしやっぱりもう少し営業に回って仕事を探します！

内藤 いや。もういいんだよ、ふみちゃん。

夫人 ありがとうね……。

内藤 新しい勤め先は、知り合いに頼んでなんとかしてもらおうからね。

ふみ お二人のいないところで働くなんて、あたし、イヤです。

夫人 ふみちゃん……。

フク ここがなくなっちゃったら、ポチはどうなるんですか？

内藤 犬がお好きなんですか？

コトブキ 好きもなにも、僕たち、犬……。

フク (コトブキの口をふさぎ) 大好きです！

内藤 (ポチの頭をなで) こいつはね、私が拾ってきたんですよ。まだこの工場にも活気があった頃です……。片手に乗っかるくらいの子ビ介でね……。

……可愛かったなあ……。

フク 今は可愛くないですか？

内藤 そんなことありませんよ。大事な家族の一員ですからね。

コトブキ それならポチのためにお仕事がんばってください。

内藤 ……失礼ですが、おいくつですか？

コトブキ 四歳です。(フクに頭をはたかれる)

フク 三十四歳です！

内藤 あなたがたはまだお若い。なにかもこれからだ。しかし私はもう……。

ふみ 社長だつてまだまだこれからです！ 先月だつて、飲み屋の女の子を

口説いてたじゃありませんか！

内藤 (夫人に睨まれ) あ、うん、ちよつと酔つ払つてたからね。

夫人 あたしが金策に駆け回つてた時に、あなたつて人は……！

コトブキ あの……帰つて来ない人を待つて、つらいと思いませんか？

夫人 そうですよ！ あたしが一体どんな思いで……！

コトブキ 帰つて来ないご主人をずっと待つてた大先輩がいるんです。先輩

はきつと、すごくさびしくて、つらかつたと思います。

夫人 わかるわ、その先輩の気持ち。

コトブキ 今ではひとつ隣の駅で、銅像になつてますけど。

夫人 ……なんのお話ですか？

コトブキ えーつと……。

フク (コトブキをひっぱり) なに言つてんのよ！

コトブキ 自分でもなに言ってるかわからなくなっちゃって……。

電話の音。

一瞬、身を硬くする内藤印刷の人々。

内藤 (行こうとする夫人を制して) 私が出るよ。どうせ借金の催促だ。(退

場)

ふみ (ポケットから封筒を取り出し) 奥さん、やっぱりこれ、いただけません……。

夫人 いいのよ、ふみちゃん。退職金には少ないけど、とっておいて。それでおいしいものでも食べてちょうだい。

ふみ でも……。

ポチ そうだ、ふみちゃんに説得してもらおう！ ふみちゃんはね、失恋して死のうとしてたところを、ご主人に助けられたんだ。

フク じゃあ、今度はふみちゃんが恩返しをする番だね！

コトブキ どうしてそんなに死にたい人ばかりなの？

ポチ コトブキ……。そういう難しいことはあとで考えよう？ な？

フク ふみちゃん！

ふみ ……はい？

フク 社長さんに、セイメイホケンでお金を返すなんてやめろって言ってください！

ふみ ええっ！

コトブキ (ふみに) どうして自分から死のうとしたりするんですか？

ふみ そんなの嘘です！

コトブキ (ホツとして) なんだ、嘘か……。

ふみ 奥さん！ あんまりですよ！

夫人 (驚いて) 何？

ふみ 社長が死ぬことないじゃありませんか！

夫人 飲み屋の女の子口説いたくらいじゃ殺さないわよ。

フク 社長さんを殺すのはセイメイホケンです。

夫人 (顔色を変えて) そう言えば最近あの人、保険の書類ばかり眺めて…。

フク お金と命を交換するなんて、そいつは悪い奴です。

ふみ そうですよ、バカな考えはやめてください。

コトブキ ここにはポチがいるじゃないですか。

夫人 どうして気がつかなかったのかしら…。

フク そりゃあ、ポチは雑種だし、人間の役に立つ犬じゃないかもしれない

けど…。

ポチ ねえ大丈夫？ 話かみあってる？

そこへ内藤が戻ってくる。一瞬、ビクつとする人々。

内藤 さて、始めようか。(と、ビニール紐を取り出す)

夫人 (奪い取り) なにするんですか！

内藤 ……なになって、ダンボールを縛ろうかと。

夫人 ここはあたしがやりますから。あなたはあちらを。ね？

内藤 (不審に思いながら) そうかい？ (とカッターを取り出す)

ふみ (奪い取り) いけません！

内藤 ……床に着いたインクをこそげ落すのがいけないのかい？

ふみ いけませんよ！ 社長、腰が悪いじゃないですか。そっちで一服しててください。

内藤 みんな、なんだかおかしいよ？

ライターを取り出した内藤社長の手には、必死でしがみつくポチ。

ポチ ダメ！ ダメ！

内藤 おいおい、なんだポチまで。  
フク 死んじゃダメ！

間。

フク ……死んじゃダメだよ。

コトブキ みんな、社長さんに生きていて欲しいんです。

内藤 ……バレてたのか……。

ふみ 社長、覚えてますか？ あたしが歩道橋から飛び込もうとした時、社長が言ってくれたこと。

内藤 もう忘れちゃったな……。

ふみ 思い出してください！ （大仰な芝居で）ああ！ あたしなんて死んだ方がいいのよ！ 生きていたってなんにもいいことなんてないんだわ！

飛び込もうとする姿勢のふみを、反射的につかまえながら内藤が歌う。

《生きていればきつと》

生きていれば きつと

いいこともあるよ

なんてね 今のは

口からでまかせだよ だけど

このひどい世界も

やがていつか さようなら

それまで もう少し

いっしょに 泣きましよう



ふみも歌い始める。そこへやがて、夫人が、ポチが、コトブキとフク  
が加わる。

涙をふきながら

毎日を生きるのは

自慢にならない

けれど 恥でもないよ

ハンカチもある

ちり紙もある

ごはんでも食べて

にらめっこしましょう

終わらない冬はない

朝が来ない夜はない

上がらない雨はない

乾かない涙はない だから

生きていれば きっと

いいこともあるよ

それまで もう少し

いっしょに 泣きましょう

生きていれば きっと

いいこともあるよ

それまで もう少し

いっしょに 泣きましょう

いっしょに 笑いましょう

内藤 もう少し頑張ってみるよ。みんなで力を合わせて、来年を迎えよう。

ポチ コトブキ、フクちゃん！ ありがとうな！

フク どういたしまして！

コトブキ あんまりなにかをやり遂げた感じがしないけど……。

ふみ 社長、奥さん。これからお寿司を食べに行きましょう！ あたし、お

ごります！

夫人 内藤印刷はつぶさないわ！ お寿司もあたしがおごる！ だからふみ

ちゃん、退職金、返してね。

ふみ (ちよつと複雑) ……はい！

ポチ これでまたみんなと一緒に暮らせるよ。

フク よかったね！

コトブキ よかったね、ポチ。

内藤 さあ行こう！ 副社長の気が変わらないうちに。

夫人 変わりやしないわ！ ただし、駅前の百円回転寿司よ！

見違えるような明るさで歌う内藤一家。

生きていれば きつと

いいこともあるよ

それまで もう少し

いっしよに 泣きましよう

いっしよに 笑いましよう

吹雪の吹き荒れる音の中、ワオーンという犬たちの遠吠え。  
夜のオフィス内。

床に開いた穴から土が盛り上がっている。

そこへワンタさんが通りかかり、穴を覗きこむが、やがて、ため息まじりに首を振りながら去っていく。

その穴から一人の泥棒が現れて歌い始める。

《泥棒ドリーム》

泥棒 3

他人のお金で 贅沢三昧

夢の生活 泥棒ドリーム

俺のドリームを教えてやろう  
いつか でっかいヨットを買って  
七つの海を 股にかけるぜ  
潮風が俺を呼んでるぜ

泥棒 2

(穴から現れ) おまえ 乗物 酔うだろう？

俺のドリームを教えてやろう  
食いたい物を 食うだけ食って  
眠くなったら 優雅に昼寝  
食べ放題の夢を見るのさ

泥棒 3

いつもと変わらないだろう？

泥棒 1

(穴から現れ) 俺のドリームを教えてやろう  
(途端に音楽が終わる)

泥棒 3 口よりも手を動かしやがれ！

泥棒 2 しかし雪の日とは考えたな。

泥棒 3 だろ？ この大雪じゃ、お巡りだって出てこられっこねえよ。

泥棒 1 じっくりお宝を探せるってわけだ。

泥棒 2 今度こそがつぼり稼ごうぜ。この間はひでえ目にあつたからさ。

泥棒 3 ほんとだよ。銀行からでかい紙袋持って出て来たから、てつきり札

束かと思つたのによ。

泥棒 2 おまえだろ？ あの女がいったって狙いつけたの。

泥棒 1 おまえらだつて乗り気だつたじゃねえか。

泥棒 2 いざひつたくつてみたら、中身全部毛糸玉だもんな。

泥棒 3 あの腰抜けを仲間につ張り込んだことといい、おまえには人を見る目がないんだよ。

泥棒 1 ちゃんと役に立ってるだろ？ 今だつて外で見張ってるんだし。

泥棒 2 なあ、今のうちに取り分を決めておかねえか？

泥棒 3 そうだな。見張り野郎にはメシ代くらいやりやあ充分だろ。

泥棒 1 あとは俺たちで山分けか。

泥棒 3 バカ言うなよ。今回の作戦を立てたのは俺だぜ？ 俺の取り分は……  
……（しばし熟考）三分の七だ。

泥棒 1 じゃあ俺の取り分は？

泥棒 3 俺が三分の七だからおまえらは……三分の二ずつだよ。

泥棒 2 三分の二か……。

泥棒 1 ……まあ悪くはないよな。

泥棒 3 とにかく金だ！

泥棒 1・2 おう！

再び《泥棒ドリーム》を歌い出す泥棒たち。

三人

他人のお金で 贅沢三昧

夢の生活 泥棒ドリーム

汗水たらして 働くなんて

やっつけられるか 泥棒ドリーム

時々まともな仕事の方が

今よりラクな気がするけれど

そんなの 気のせいに決まってるあ

夢の生活 泥棒ドリーム

汗水たらして がんばるぞ

夢の生活 泥棒ドリーム

泥棒 1 あっ！

泥棒 2 あったか？

泥棒 3 (タバコの吸殻に火をつけようとしている泥棒 1 に) シケモクなん

か拾ってんじゃねえよ！

泥棒 1 悪い悪い。(火のついたタバコを放り捨てる)

泥棒 2 俺さ、金が入ったら、「カジノ」ってどこに行ってみてえんだ。

泥棒 1 どこだよ、それ。

泥棒 2 「カジノ」って言ったらアメリカの首都に決まってるだろ？ そこ

に「ラスベガス」っていうギャンブルし放題のいい店があるらしいんだ。

泥棒 3 アメリカの首都は「ケネディ」だぞ。

泥棒 2 ……そうだったか？

泥棒 1 そうだよ。なんかおかしいと思った。

泥棒 2 いっけね、「カジノ」は県庁所在地か……。

泥棒 3 おまえは本当にものを知らねえな。外国に行くにはパスポートがいるんだぜ？ 持ってるのか？

泥棒 2 保険証しか持ってねえよ。

泥棒 1 俺、先月空き巣に入って一冊盗って来たよ。譲ってやろうか？

泥棒 2 マジで？ 助かるよ。

泥棒 3 ちよっと待てよ。(ひどく真剣な様子で泥棒 2 に) 保険入ってるのか？

泥棒 2 うん。

泥棒 3 (つくづく感心して) おまえ、偉いなあ。

泥棒 1 (辺りを見まわし) なあ、ここって……ほんとに銀行か？

泥棒 2 当たり前だろ！ ちゃんと銀行の真下から……。

そこへ、青年が体をさすりながら入ってくる。

青年 よかった。みんないた。

泥棒 1 あ！ ちゃんと見張ってなきやダメだろ！

泥棒 3 どうせ入ってくるならこの穴を使え！

泥棒 1 そうだよ！ 俺たちの苦労をなんだと思ってるんだ。

青年 ごめん……ドアが開いてたから、つい……。

泥棒 2 デリカシーのない奴だな！

青年 おいていかれたのかと思ったんだ。銀行の外で待っててもみんな来ないから。ずいぶん探したよ。どうして隣のビルにいるの？

間。

泥棒 3 (突然激しく泥棒 2 に) おまえが「ここ掘れ、ここ掘れ」って言ったんだぞ！

泥棒 2 人を花咲かじじいみたいに言うなよ！

泥棒 1 「ここ掘れ」って言ったのは、じいさんじゃなくて犬だぜ？

泥棒 2 (泥棒 3 に) 言い出しっぺのくせに地図も持って来ねえおまえが悪  
いんだろ！

泥棒 1 しょうがないよ、こいつ、方向音痴で地図読めないんだから。

泥棒 2 よくもそれで三分の七だなんて偉そうなことが言えたもんだな！

泥棒 3 こっちが必死に穴掘ってる時に、半ベそかいてた奴に、そんなこと言われる筋合いはねえ！

泥棒 1 こいつ、閉所恐怖症だから。

泥棒 2 とにかくおまえには三分の七も持つてく資格はねえよ！

泥棒 3 なにを！

泥棒 2 せいぜい一分の七がいいとこだな！

泥棒 3 俺をこけにするつもりか！

泥棒 1 ぶえつくしよん！（と大きなくしゃみ）

泥棒 2 （泥棒 1 に）うるせえよ！

泥棒 1 俺、アレルギー性鼻炎で……。

泥棒 3 大体、ここはどこなんだよ！

フク （指でくるくるくる鍵を回しながら現れ）こんばんは。

フクとコトブキの登場に、凍りつくバカトリオ。

コトブキ ここは中央印刷さんですよ？

泥棒 2 あの……どちらさまでしょう？

コトブキ ニコニコハウスクリーニングです。

フク お客様第一がモットーです！

泥棒 3 私どもは……へらへら警備会社の者です。

フク なにやってるんですか？

泥棒 3 アー……最近、この辺りでオフィス泥棒が多発しておりますで、怪しい者がいないか見回っているんです。（泥棒 1・2 に）な？

泥棒 1 ええ。暮れはなにかと物騒ですから。

泥棒 2 まったくです。

フク へーえ。

泥棒2 (床の穴を見ているコトブキに)そこはですね! さっき、あの、  
サンタクローズが……!

泥棒1 そうです! サンタクローズが突然飛びこんで来て!

コトブキ・フク (感心して)へーえ!

泥棒2 (小声で)信じたよ。

泥棒3 バカだな、こいつら。

どこからともなく、ウーツという犬の唸り声。

コトブキ どこにいるんですか?

泥棒1 え?

フク (あたりを見まわし)サンタクローズは?

泥棒3 サンタクローズはですね、子どもたちのところへ行っちゃいました。

「泣く子はいねえかあ、悪い子はいねえかあ」って言いながら。

フク ふーん……?

泥棒1 (泥棒2に)それは獅子舞だよな?

泥棒2 ナマハゲだろ?

泥棒1 なんにしても無理があるよ。

コトブキ (フクに)会えなくて残念だね。

泥棒1 信じたよ!

泥棒2 こいつら、犬以下だぜ。

再びウーツという唸り声と共に、辺りから犬たち、B、F、ロ、ハ、  
二、ホ、へ、が集まってくる。

フク じゃ、始めようか。

コトブキ (フクに)あのさ、つつい忘れちゃうんだけど、僕、訊きたい  
ことが……。



泥棒3 それでは、わたしたちはこの辺で……。

フク (青年に) あ! あんた見たことある!

犬B (男たちが逃げ出そうとするのと同時に) そいつら、泥棒だぞ!

犬たち、一斉に吠えながら、泥棒たちを追いたてる。逃げ惑う三人。

泥棒3 なんでこんなに犬が?

泥棒2 犬、嫌い!

泥棒1 助けてー!

あっという間に走り去って行く三人と犬たち。

呆然と取り残されるコトブキとフクと青年。

コトブキ 思い出した。食い逃げの人だ。

フク あんた悪い人なんだ。

青年 違うよ。

コトブキ だって泥棒の仲間でしょ?

青年 あの人たちには最近、仲間に入れてもらったんだ。一生懸命なわりにちつとも稼いでないみたいだから、そんなに悪い人たちでもないんじゃないかな

いかと思つて……。

フク 泥棒は悪い人だよ。

コトブキ 君のこともおいていっちゃったし。

青年 でも親切にしてくれたんだよ。

フク どんな親切?

青年 パンをくれた。

コトブキ パンをくれたんならいい人かなあ……。

青年 忘れられないんだよ。親切にされたことつて。

フク 一度受けた恩を忘れないのは、立派なことだね。

コトブキ 餌をくれる人も大事だけど、できれば自分を本当に愛してくれる人と一緒にいたいと思わない？

青年 ……そんな人、どこにいるの？

コトブキ それはこつちが聞きたいくらいなんだよねえ。

フク (鼻をくんくんさせ) なんか匂う……。

その時、背後から煙があがる。

タバコの吸殻から引火したと思われる炎が次第に広がっていく。

フク 火事だ！

コトブキ 水！ 水は？

青年 ああ！

コトブキ (青年に) 水、どこか知ってる？

青年 あのね、さつき、これはサンタクロースが開けた穴だっていったでしょう？ でも本当はそうじゃなくて、あの人たちが泥棒に入るために、自分であけた穴なんだよ！

コトブキ (必死に頷きながら聞いていたが) ……だからなんなの？

青年 ……嘘はいけないと思って……。

コトブキ えー……。

フク 見て！ 土がある！ これをかけよう！

穴の周りの土を一生懸命、手でかける三人。

焦る気持ちをおさえるように歌うコトブキとフク。

《コトブキとフクのテーマ》

なんとかなるよね 大丈夫だよ

犬も歩けば 棒にも当たる

ついてないことだってあるけど  
いっしょにいるから 大丈夫だよ

コトブキ ダメだ。全然追いつかない。

火災報知気がけたたましく鳴る。

フク もう、こうなったら……！

すかさず四つんばいになり、炎に向かって後ろ足で土を蹴り上げるフク。コトブキもそれにならう。

コトブキ おさまってきたよ、フクちゃん！

フク やっぱり頼りになるのは足だよ！（青年を見て）あれ？

同じく四つんばいになり後ろ足で土を掛けている青年。

フク あんた、まさか……。

消防車のサイレンと、バタバタと人が駆けつける音。

あわてて逃げていく青年。

炎がおさまるにつれて暗転。

手相占のおばあさんのところへおじいさんが現れる。

おじいさん よろしいですか？

おばあさん はい。……でも、手相はそんなにころころ変わるものじゃありませんけど……。

おじいさん お願いします。

おばあさん では。(手を見て)ずいぶんつらい目に遭われたようですが……。

おじいさん はい。

おばあさん 近いうちにきつといいことがあります。

おじいさん それが聞きたかったんです。(小さな花束を差し出し)あの、よろしければ、これを。

おばあさん まあ、きれいだこと。

おじいさん 無理をお願いしたお詫びに。(そそくさと去ろうとする)

おばあさん ……あの、お鍋はお好きですか？

おじいさん は？

おばあさん 寄せ鍋とか、水炊きとか……。

おじいさん ええ、この季節は鍋に限ります！ ただお恥ずかしいことに、

ひどい猫舌でして。

おばあさん あら……。

おじいさん 犬は大好きなんですがね。

おばあさん ……犬とお鍋とどういった関係が……？

おじいさん ……いえ、なんでもありません……。

おばあさん (ハッと)ああ！猫舌！猫と犬ですね！

おじいさん いや、つまらないことを言いました。

おばあさん 猫と犬ね……！ごめんなさい、私、せっかくの面白いお話を。

猫と犬をひっかけてたなんて思いも寄らなくて……。

おじいさん もうそのくらいで。どんどん切なくなりますから……。

おばあさん すみません……。

気まずい沈黙。

おじいさん ……では。(と、去りかけ) また、占っていただけますか？  
おばあさん でも、私、同じことしか……。

おじいさん 「近いうちに、きつといいことがある」。

おばあさん ええ。

おじいさん ……そう言ってほしいんです。何度でも。

おじいさん、退場。

入れ替わりに、岡持ちを持った加奈が浮かない表情で現れる。

加奈 お願いします。

おばあさん はい、ではお手を。(手を見ながら)、ずいぶんつらい目に遭って  
きましたね。

加奈 ええ。実は彼と……。

おばあさん でも、近いうちにきつといいことがありますよ。

加奈 ほんとですか？

おばあさん ええ。

加奈 ありがとうございます！

うれしそうに帰って行く加奈。

その姿を優しく見送りながら、小さな花束を大事に持っておばあさん  
も帰って行く。

コトブキとフクが作ったオブジェを呪いのように引きずりながら商店  
街に現れた節子、切々と歌う。

《お嫁さんブルース》

いつかハンサムな王子様と

お城に住むはずだった私

今はさびれた商店街で

毛糸屋の毛深い長男の嫁

夫は優しい人だけど

世間知らずの温室育ち

姑だらけのこの町で

私はもう一度夢に見る

いつか かぼちやの馬車に乗って

舞踏会へ招かれる日を……！

### 三婆

（節子の背後でそれぞれコトブキとフクが作ったオブジェを飾り付けたり、出店の準備をしたりしていたが、歌が盛り上がりきった瞬間を狙ったかのように声をそろえて）節子さんてば！

### 節子

（夢から覚めて）……はい。（と、売出しの準備に戻る）

加奈が軽い足取りで戻ってくる。

ヤスエ あら、加奈ちゃん。どこにお嫁に行くか決まった？

加奈 今ね、占いしてもらったら、近いうちにきつといいことがあるって言われちゃった！

チヨ 占いって、二丁目の角のー？

加奈 そう！

ハル あのおばあさんは誰にでも「近いうちにいいことがある」って言うんだよ。

チヨ そうなのー？

節子 あたしもそう言われましたよ。なのにひったくりなんか遭っちゃつて。

ヤスエ でも盗られたの糸だけだったんでしょ？ 不幸中の幸いじゃない。

節子 お義母かあさんにはたっぷりお説教されましたけど……。

ハル ほらね。占いなんて当たりやあしないよ。

加奈 そうなのかなあ……。

チヨ そうよー。節子さんにいいことなんてあると思うー？

ヤスエ (シヨックを受けている節子に) ちよつと節子さん！ そこ、曲がってる！

父親の声 加奈！ どこで油売ってんだ！ 出前たまってるぞ！

加奈 はい……。(しよげかえって退場)

ヤスエ あらあら、あんなにしよげちゃって。

チヨ ちよつと可哀相ねー。

節子 あたしほどじゃありませんよ……。

ハル さて！ いよいよ歳末大売出しだよ！

ヤスエ あらやだ、急がなくなっちゃ！

そこへ、コトブキとフクが現れる。

フク 黙っててよ、コトブキ！ 集中できない！

コトブキ なんにも言っていないよ。

フク ……今、「おなかすいたね」って言わなかった？

コトブキ 心の中で思っただけ。

フク 心の声が耳に障るの！

コトブキ フクちゃんの心の声じゃないの？

フク ちよつと待ってなよ、どこかこのあたりに食べ物が……ああ、人間の鼻って感度悪い！

ヤスエ あら、ちようどいいところに。

チヨ この間はお疲れ様ー。

節子 (オブジェを示し) ほら！ 素敵に仕上がったでしょう？

ハル (節子に) 自分の手柄みたいに言いなさんなよ！(コトブキとフクに)

まあ一杯飲んでいきなよ。つまみもあるしさ。

コトブキ いいんですか？

ヤスエ これ、お食べなさい。びっくりプリン。プリンの中に栗羊羹が入ってるのよ。

フク いただきます！

貪り食うコトブキとフクを不気味な笑顔で見守る弁天会の面々。

ヤスエ ……ひっかかったわね。

ハル ちよろいもんだ。

節子 なんにも知らないで……。

チヨ (コトブキとフクに) おいしかったー？

フク はい！

コトブキ ごちそうさまでした！

立ち去ろうとする二人を羽交締めにする三婆。

ヤスエ ねーえ、あんたたち。「一宿一飯の恩義」って言葉知ってる？

フク 知りません。

ハル そうかい。じゃあ体で覚えてもらおうか。

コトブキ (引きずられながら) なにするんですか？

ハル 手伝うんだよ！

チヨ はい、この花束にリボンかけてー。

ヤスエ こっちのケーキの箱にもね！



フク (慣れない手つきでリボンを結びながら) どうしてこんなヒモをかけるの？

ヤスエ これがいいものだっていう印しるしじゃない。

コトブキ・フク (感心して) へーえ。

ハル ほら、「いらっしやいませ」は？

フク・コトブキ いらっしやいませ。

ハル 声が小さい！

フク・コトブキ いらっしやいませ！

そこへ「キレー」「かわいいー」などの嬌声を上げながら、(コトブキを除く男性キャスト全員が扮する)女性の買物客が、オブジェに群がって来ると同時に音楽。

《愛だ恋だは商売の次》

寄ってらっしやい 見てらっしやい

見るだけじゃなくて 買ってらっしやい

寄ってらっしやい 見てらっしやい

見るだけじゃなくて 買ってらっしやい

惚れた腫れたと のろけるためには

まずは生まれて こなけりやならぬ

生まれたからには 食べなきゃならぬ

食べるためには 食べるためには

食べるためには 稼がにやならぬ

甘い囁き 「安くしとくよ」

別れの台詞は 「またご贖員に」

恋人一人 抱きしめるヒマに  
お客を十人 呼びこんでみせる

愛だ恋だは 商売の次

あなたに夢中で 夜も眠れぬ

薬も効かない 病なんぞは

明日の商いに 差し障る

買物客が去り、へとへとなコトブキとフク。

コトブキ 終わったのかな。

フク このすきに逃げるよ！

ハル (逃げ出そうとする二人に) ご苦労さん。(と酒を渡す)

ヤスエ はい、これ、売れ残りだけど。(とプリンを渡す)

チヨ うちのもあげるー。持って帰るの重いからー。(と花を渡す)

節子 災難だったわね。(とマフラーを巻いてやる)

売れ残りの品を持たせ、次々に去って行く弁天会。

コトブキ ありがとうございます……。

ハル それからこれね！(と酒瓶を渡す)

フク もう持ちきれません。

ハル 帰るついでに配達頼むよ。裏通りの金田商事さんの営業部まで。落と

すんじゃないよ！

コトブキ はい……。 (呆然とハルを見送る)

節子 (辺りを窺いながらフクに千円札を一枚渡し) これ、バイト代。いい

のいいの、弁天会の予備費だから。その代わり、初売りセールの時も手伝  
いに来て。お願いね！(と退場)

コトブキ ……初めてお金もらえたね。

フク (匂いを嗅いで) なんか臭い……。こんな紙切れと、よくなんでも交換する気になるよ。

コトブキ 清さんと貴子さんも、その紙を集めるためにがんばってたのかなあ。

フク えー、違うよ。清さんと貴子さんはね、もっといい匂いがする楽しいことのために毎日がんばってたんだよ。

コトブキ そうだよね。だからいつも笑ってたんだよ。それでいつも優しく僕たちにおいしいものを……。 (泣けてきて) こんなへんちくりんなプリンなんかじゃなくて……。

フク …… (つられそうになり) 泣かないよ!

コトブキ (涙を拭きながら) うん。

フク (酒瓶を見つめ) それ、届けに行く?

コトブキ そうだね……。

コトブキとフク、退場。

7

金田商事の社内で電話が鳴る。

あわてる様子もなく電話に出たのは、女性社員の猪熊。

今時珍しい、見事なほど垢抜けないイモねえちゃん。

猪熊 はい。金田商事です。

そこへ男性社員たち、山田、榎本、高橋、小峰が現れる。

高橋 いよいよ今年も終わりですねえ。

榎本 あとは得意先への挨拶回りと大掃除だけかあ。

小峰 高橋君、お正月どうするの？

高橋 食って食って寝るだけです。

榎本 いつもと変わらないだろ。

小峰 僕も実家で寝正月かな。

山田 小峰君、実家どこ？

小峰 小田原です。

榎本 いいなあ、近くて。

高橋 榎本さんは？

榎本 博多だよ。高速使っても丸一日かかるんだぜ？

高橋 飛行機か新幹線にすればいいのに。

榎本 高くつくもん。うち、子供五人だよ？

小峰 山田さんはいいよなあ。グアム行くんでしよう？

山田 ……うん、まあね……。

高橋 奥さん怒らせたバツなんですよね。

小峰 なにそれ？

高橋 高い釣竿買ったのばれちゃったんだって。

山田 夜中のテレビショッピング見てたらしいね……。だって、手作りの上に名前を彫ってくれるんだよ？

小峰 山田さん、釣りの趣味なんてありましたっけ？

山田 ううん。魚、嫌いだし。

榎本 そりゃ奥さんも怒るよなあ。

山田 名前入りだから返品がきかないんだよ……。

猪熊 はい。はい、わかりました。どうぞよいお年を（電話を切る）

高橋 （猪熊に）どこから？

猪熊 中央印刷さんでした。

榎本 そう言えば、カレンダー遅いよな。

小峰 あれが来ないとお得意先回れせんよ。

猪熊 そのカレンダーが、ダメになっちゃったそうです。

山田 ダメになったってどういうこと！

猪熊 火事騒ぎでおじやんだそうです。急いで刷り直しても年内には間に合  
わないって。

榎本 それでなんで「はい、わかりました」なんだよ！

猪熊 だって事情はよくわかりましたから。

小峰 おまけに「よいお年を」って言ってなかった？

猪熊 年末ですから。それに、「どんな時もお挨拶だけはきちんとしろ」って  
ばあちゃんが。

高橋 大物だよ、猪熊さんは。

山田 それよりどうする？

小峰 今年はカレンダーなしでいきますか？

榎本 ダメだよ！ あのカレンダーが使いやすいつてんで取引してくれると  
こがいっぱいあるんだ。

高橋 それは会社としてどうなんですか？

山田 そもそも発注するのが遅過ぎたんだよ。

小峰 榎本さんですよ、ギリギリに届けて忘年会に紛れ込もうって言ったの。

榎本 届ける時期はギリギリでも発注は早い方がいいって言ったろう？

猪熊 小峰さんが、出来立てのホヤホヤを届けたいって言ったんです。

小峰 誠意が伝わると思ってたさ。

高橋 関係ないでしょう、弁当じゃないんだから。

山田 (びくつき) うわ！ でっかい蜘蛛！

榎本 やだ！ 俺、蜘蛛苦手！

猪熊が顔色ひとつ変えず、すさまじい音をたてて素手で蜘蛛をたたき  
つぶす。

山田 なにも殺すことないのに……。

猪熊 「夜の蜘蛛は親に似ていても殺せ」ってばあちゃんが。

小峰 今は夜じゃないけど。

高橋 大物だよ、猪熊さんは。

そこへ手荷物いっぱいそのままコトブキとフクが現れる。

フク こんにちは。

コトブキ お酒の配達です。

小峰 え？ うちに？

高橋 忘年会用に頼んだんです。

榎本 忘年会、会社でやるの？

山田 あれ、聞いてない？ 経費節約のために今年は店でやるのやめたんだよ。

小峰 また阿久津さんですか……。

フク (うれしそうに) あ！ 大きい蜘蛛！ (と指でつつく)

コトブキ ほんとだ！ 死んでるね！ (とつつく)

山田 最近の女の子はみんな蜘蛛とか平気なの？

阿久津 ちょっと高橋君！

声と共に阿久津が現れる。

阿久津 こんな領収書、経費で落とせないわよ！

高橋 でも、あの日はもう電車がなくて……。

阿久津 歩けばいいじゃない3kmくらい！ それから小峰さん。修正液使い過ぎ！ もっと落ち着いて書類書けないの？

山田 まあまあ阿久津さん。ほら、お酒届いたよ。

阿久津 (酒瓶を見てからコトブキに) あなた、配達の人？

コトブキ はい。

阿久津 （酒瓶を返して）もつと安い焼酎かなんかと取り替えてきて。あるでしょ？ ペットボトルとか紙パックのヤツ。

榎本 （奪い返し）ちよつと待ってよ。そこまで切り詰めなくてもさあ……。

阿久津 榎本さん、今月のお茶菓子代まだじゃない？ そうそう、お茶がらで掃き掃除してるの、猪熊さん？

猪熊 はい。ばあちゃんに教わって。

阿久津 時々玄関の隅に残ってるから気をつけてね。でも感心だわ。その調子でがんばって！

猪熊 私、阿久津さんのこと尊敬してるんです。まるでばあちゃんを見てるみたいで。

阿久津 （嬉しくない）そう……。

猪熊 どうしてこんな素敵な人が、いつまでもお嫁にいけないのか不思議でなりません。

凍るような間。

高橋 そうだ！ 大変ですよ、阿久津さん！ カレンダー、印刷屋のミスで燃えちゃったって！

阿久津 ……誰がオールドミスですって？

山田 誰もそんなこと言ってないじゃない！

榎本 どうするよー！ カレンダー。

小峰 （コトブキとフクに）悪いね、なんかごたごたしちやっつて。

コトブキ いいえ。カレンダーは大事ですから。

榎本 あんたたち、融通のきく印刷屋知らない？

フク （コトブキに）知り合いは犬ばかりだよね。

山田 どこかあるんじゃないか？ 特別料金出せば急いでやってくれるところが。

高橋 うちがお金出すことないでしょう。あっちのミスなのに。

阿久津 ミスって言わないで！

猪熊 手作りしたらどうですか？「ないものは自分で作れ」って、いつもばあちゃんが。

小峰 なんだか僕、猪熊さんのおばあちゃんとも一緒に働いてる感じがしてき  
たなあ。

山田 イモ判なんてどう？ 僕、得意なんだ。

フク イモ、賛成！

コトブキ フクちゃんの好物だね。

阿久津 確かに経済的ね。

小峰 だけど、それって年賀状じゃない？

榎本 いっそ挨拶回りを年明けまで延ばしてさ、新年会に紛れ込むってのは  
どう？

山田 どうしても紛れ込みたいんだね。

小峰 なんかいアイデアないかなあ。

猪熊 ばあちゃんに電話してみましようか？

高橋 僕、ここまでなんか出かかかってるんですけど……。

山田 がんばれ、高橋君！

高橋 (ハツと) そうだ！ 小峰さん、お土産にかまぼこ買ってきてくださ  
いね。榎本さんは明太子！

榎本 おまえも大物だよ、高橋。

小峰 このままじゃ実家にも帰れないよ。

ため息をついてうなだれる社員たち、頼りなげに歌い出す。  
その内容のあまりの情けなさに、犬たち、イ、ハ、ホ、へ、が途中か  
ら呆れながら参加。



社員

もうじき今年もおしまい  
目まぐるしい日々もひとやすみ  
もういくつ寝るとお正月  
仕事おさめて我が家へ帰ろう

そうは言っても  
にっちもさっちも どうにもならない  
絶対絶命 手も足も出ない  
一体全体 どうすりやいいのさ  
一切合財 投げ出し逃げたい

犬たち

どいつもこいつも 役には立たない  
ぼんくらばっかり 目もあてられない  
ちよつとやそつとじゃ 救いようがない  
まったく呆れた 給料泥棒

合唱

どこかに もし いるなら神さま  
仏さまでも ご先祖さまでも  
どうか なんとか 助けてお願い  
年の瀬で お忙しいでしょうけど

(〜どこかにもしくのところまでワンタさんが通りかかる。犬たちは必死に手招きするが、ワンタさんは素知らぬ顔で行ってしまう)  
歌が終わると同時にコトブキがひらめく。

コトブキ いたよ！ 印刷屋さん！

コトブキ・フク (顔を見合わせ) 内藤印刷!

フク あそこならきつと引受けてくれる!

阿久津 高橋君! 電話!

高橋 (電話に飛びつき) もしもし? 金田商事と申しますが、実は大至急

カレンダーを……

内藤 (受話器を耳にあてたまま飛びこんできて) はい! もう喜んで! 命に代えても間に合えますです!

暗転。

8

一人の若いサラリーマンが、木枯らし吹く夜道を千鳥足で歩いている。  
やがて足がもつれて転び、そのままその場に眠り込んでしまう。  
眠る男を犬たち、イ、ハ、ホ、へ、が取り囲む。

《嘆きの子守唄》

犬たち 犬も嫌がる 酔っ払いにも

飲まずにやいられぬ 訳もあろう

若い男 年明けたとて なにうれしかろう

クビは切られるし 金もなし

犬たち 早く行きたや 彼女のもとへ

けれど会わせる顔がなし

だから今夜はへべれけでん  
せめて今夜はへべれけでん

犬たち退場。入れ替わりに荷物を抱えたコトブキとフクが現れる。

フク あ！ 酔っ払いだ。

コトブキ 暴れる方？ ぐにやぐにやの方？

フク ぐにやぐにやの方みたい。(揺り起こし) こんなどころで寝てたら風邪  
引きますよ！

若い男 うるさい！

コトブキ (ひるみ) 暴れる方の酔っ払いじゃない？

若い男 俺はダメ人間なんだ！ 犬以下なんだよ！ 放つといってくれ！

フク (ムツとして) じゃあほっところか。

コトブキ (覗きこみ) でも、泣いてるみたいだよ。

若い男 俺はもうおしまいなんだあ！

コトブキ また死のうとしてる人かな。

フク ほら。プリンあげるから泣かないの！

若い男、おとなしくプリンを食べる。

フク びっくりした？

若い男 ……羊羹が気持ち悪い……。

コトブキ どうしたんですか？

若い男 会社をクビになった……。

フク なにかいけないことしたの？

若い男 (コクリと頷く)

フク じゃあしょうがないね。

コトブキ フクちゃん……。

若い男 俺のタバコの不始末で、会社が火事になったんだ。商品が燃えちゃって取引先がひとつパー。おまけに火事場泥棒にまで入られた……。

コトブキ ……（フクに）なんだかすごく身近な話に聞こえない？

フク うん。なんでだろうね。

若い男 これじゃ結婚なんて無理だな……。

コトブキ 結婚するんですか？

若い男 そのつもりだったけど、こんなじゃ彼女にも嫌われちゃうよ。

コトブキ それなら一緒にならない方がいいです。

若い男 ……え？

フク 嫌いな人にはね、近寄っちゃダメなの。噛みつきたくなくなるでしょう？

コトブキ 噛みつくのはよくないからね。

若い男 ……噛みつくほど人を嫌いになる娘じゃあ……。いや……彼女のせ

いにしちゃいけないよな……。すごくいい娘なんだよ。だからね、幸せに

なってもらいたいんだ。でも俺はダメな男だから……。

フク 幸せになってもらいたいの？

若い男 うん。

コトブキ 笑ってほしい？

若い男 うん。

フク おいしいものをあげたいんだね。

若い男 ……そうだね。

コトブキ そんなふうにする人は、ダメじゃないんじゃないかなあ。

若い男 そうかな……。

フク うん、あんたは結構いい人だよ。

コトブキ そうだ！（ケーキの箱にかかっていたリボンをはずし）これをか

けてあげる。（と、男の顎から頭に結んでやる）

若い男 なにしてるの？

フク （コトブキを手伝いながら）リボンだよ。

若い男 リボン？

コトブキ このピラピラしたきれいなひもはね、とつてもいいものにかけるらしいんだ。

フク あんたが いいものだっていう印だよ。

コトブキ できた！

リボンを掛け終えたコトブキとフク、満足げに若い男を眺める。

若い男 ……どうなの？

コトブキ よく似合うよ。(フクに) ね？

フク (力強く頷き) あんたが いいものだってすぐわかる。早く好きな人に会いに行きな。

若い男 ……ありがとう。なんだか元気が出てきたよ！

コトブキ よかったね！

フク もう外で寝ちゃダメだよ！

男は頭に大きなポンポンボウを乗せたまま、力強い足取りで帰って行く。

フク (指輪ケースが落ちているのに気づき) あ！ 忘れ物！ ちよつと届けてくる！

コトブキ 僕、荷物の番してるね！

フク、急いで追いかける。

コトブキ ……なんだか疲れちゃったなあ。

眠ってしまうコトブキ。

そこへ貴子の声が聞こえてくる。

貴子 コトブキ コトブキ

コトブキ (眠りながら) 貴子さん？

貴子が現れ、《見ているからね》を歌う。

コトブキはいい子ね

こころのやさしい子ね

大丈夫 大丈夫よ

ここから 見てるからね

フクちゃんと仲良くね

いつまでも仲良くね (去る)

コトブキ (目を覚まし) 貴子さん！

あわてて追いかけるコトブキ。入れ違いにフクが戻ってくる。

フク やっぱり大事なものだったみたい！ ……あれ？ コトブキ、どこ行  
っちゃった？ 荷物の番してるって言ったくせにしようがないなあ。

座り込んだ途端に睡魔に襲われ、眠ってしまうフク。

そこへ清の声が聞こえてくる。

清 フクちゃん フクちゃん

フク (眠りながら) 清さん？

清が現れ、《見ているからね》を歌う。

フクちゃんはいいい子だ  
明るく 元気いっぱい

大丈夫 大丈夫

ここから 見てるからね

コトブキと仲良くね

いつまでも仲良くね (去る)

フク (目を覚まし) 清さん!

あわてて追いかけるフク。

やがて駆け寄り合うコトブキとフク。

フク 清さんの夢を見たよ!

コトブキ 僕も貴子さんの……! (フクの顔を見た途端、打ちしおれる)

フク どうしたの? (歌う) なんとかなるよね 大丈夫だよね……。

コトブキ 大丈夫じゃない……。

フク (かまわず歌う) いっしょにいるから 大丈夫だよね……。

コトブキ 歌わないでよ! それは、清さんと貴子さんの歌だ。おんなじ顔  
してるけど、フクちゃんは貴子さんじゃない! 清さんと貴子さんじゃな  
きゃだめなんだ! ……でも、もう二人はいないじゃないか。匂いも嗅げ  
ないし、撫でてもらえない……。もう会えないじゃないか……。夢でしか  
会えないのに、どうして大丈夫なんて言えるの?

フク それはだね……。

コトブキ フクちゃんは平気なの?

フク ちょっと待ってよ! 今、考えてるんだから! (としゃがみこんで考  
える) ううー。

コトブキ ……清さんと貴子さんが言ってたよ。フクちゃんの「フク」って名前は、幸せって意味なんだって。幸せってどんなことなのかも、二人は教えてくれたよね。その人たちがいなくなっちゃったら、僕はもう……。

フク コトブキ。見て。(と地面を指さす)

コトブキ (覗きこみ) 水たまりが凍ってる。

フク そうじゃなくて。ほら。なにが映ってる？

コトブキ ……清さん……。

フク 違うね。清さんはそんな情けない顔してなかった。

コトブキ (シユンとする)

フク 目を閉じてごらんよ。

コトブキ ? (目を閉じる)

フク ……本当の清さんと貴子さんの顔が見える？

コトブキ なんにも見えないよ。

フク 思い出すんだよ。ごはんをくれる時の顔、散歩に連れていってくれた時の顔。

コトブキ (目を閉じたまま、懐かしさがこみ上げてくる)

フク 見えるでしょ？

コトブキ ……笑ってる……。

フク いつでも会えるんだよ。あたしたちはいつも一緒だったし、いつも楽しかった。忘れっこないよ。だから大丈夫だよ。

コトブキ ……もし僕が死んじゃっても、フクちゃん、こうやって思い出してくれる？

フク 清さんと貴子さんが言ってたよ。「コトブキ」っていうのは長く生きるって意味なんだって。だから大丈夫。あたしたちは一緒にいれば、長〜く幸せに生きられるよ。

コトブキ フクちゃん……。

コトブキ、うれしさのあまり、フクの腕を何度も甘噛みする。



フクは噛まれるがままに、頭をぐりぐりとコトブキに押しつける。

ワンタさんが現れ、「もう二つ寝ると、お正月」とだけ歌い、やがて訳知り顔で微かに笑みを浮かべて去って行く。  
入れ替わりに青年が現れ歌う。

《帰れ犬コロへ》

うるわしの原っぱ　今もたたずめば  
草の香　かおりて　わが胸をうつ

窮屈な服も　靴も脱ぎ捨てて  
戻っておいでと　われをいざなう

されど今は人間　じつはただの犬  
なつかし四つ足で　走る日待つのみ

犬たち、A、B、P、D、E、ロ、ハ、ニ、ホ、へ、が現れ歌う。

ひなたでお昼寝　夜空のお散歩  
予防注射打てば　ご褒美におやつ

鎖でつながれ　不自由もあれど  
お金の苦労も　しがらみもなし

あわれ君は人間　じつはただの犬  
なれない世間を　犬かきで泳ぐ

かえれよ　犬を捨つるな

かえれ　犬コロへ　かえれよ

フク　やっぱりあんた犬だったんだ。

いつのまにか現れたコトブキとフク。犬たちは散り散りに去っていく。

コトブキ　ワンタさんをお願いしたの？

青年　うん。僕のご主人様がね。

フク　もう悪いことしてない？

青年　してないよ。あの三人ともあれつきりだし。

コトブキ　君、名前は？

青年　……一郎。

コトブキ　僕はコトブキ。この子はフクちゃん。

青年　……やっぱり、コロ。

フク　どっちなのよ。

青年　犬の時はコロって呼ばれてた。

コトブキ　じゃあコロって呼べばいい？

青年　でも人間になってからは、ご主人様が一郎って呼ぶし……。

フク　わかった。あんたの名前はイチコロね！

青年　……すごく自分じゃない気がする。

フク　なによ。いい名前じゃない。

青年　やっぱりコロって呼んでくれる？

フク　やだ。イチコロがいい。

コトブキ　いじわるだよ、フクちゃん。(青年に)でもそれでご主人様に怒ら

れない？

青年 もうずいぶん会ってない。家出してきちやったから。

フク どうして？

青年 息がつかまっちゃって……。いくら姿を変えたって、中身は犬なんだから。人間らしくなんて暮らせないよ。でも住むところもないし、お金もないし……。

コトブキ 住むところがなくても自由に暮らしてる人間はいっぱいいるけどね。

フク ああ、野良人間ね。

青年 あの人たちはああ見えて、ものすごく厳しいルールの中で暮らしてるんだよ。

コトブキ そうなんだ……。

青年 ねえ、コトブキ、ムクちゃん。

コトブキ フクちゃんだよ。

青年 僕も仲間に入れてくれない？

フク 名前間違えたからダメ。

青年 もうひとりはいやなんだ。同じ犬人間のよしみで一緒にいさせてよ。僕、なんでもするから。お願い。

コトブキ だけど、僕たちが人間の姿でいられるのは、除夜の鐘が鳴るまでだから……。

フク 明日の夜には犬に戻っちゃうの。

青年 (がっくりと) またひとりぼっちかあ……。

フク あんたも犬に戻ったら？

青年 戻り方知らないもん。僕、自分から人間になったわけじゃないし……。

コトブキ 困ったねえ。

フク 人間のままでいるんならさ、あんた、新しい飼い主になってくれない？  
そうすればあたしたちも野良犬にならなくてすむし。

青年 どういうこと？

コトブキ 実は僕たち、犬に戻ったら保健所に追われる身なんだよね。  
フク そうしようよ。それでおいしいものを食べて仲良く暮らそう？

青年 そうしたい！

コトブキ でも、お家もお金もないんだよ？

フク コロが働けばいいんだよ。

コトブキ (青年に) 働いたことある？

青年 泥棒なら。

フク ニコニコハウスクリーニングを継いでもらおうよ！ ちようどよかつた。今から最後のお仕事にいくところだから、そこでしっかりやり方を覚えてね。

青年 うん！ 僕がんばるよ、ムクちゃん！

フク ……この物覚えの悪さで大丈夫かな。

コトブキ あのさ、フクちゃん……。

フク まあいいか。さあコトブキ、最後のお仕事はどこへ行けばいいの？

コトブキ ……(カレンダーを見る) あれ？

フク なあに？

コトブキ 同じ時間に、二つのお家から頼まれてる……。

顔を見合わせる三人。

おじいさんが家で晩酌の準備をしている。

おばあさんが家で鍋の準備をしている。

それぞれの歌が輪唱のように(\*部分のみユニゾン)さびしい夜に響く。

《手酌エレジー（ひとり鍋）》

わびしい（白菜） この夜（お豆腐）

今日も（おいも） ひとり（鶏肉）

手酌で飲む酒は（お鍋は）

涙の味がする（できれば）

\* せめて誰かと

（つつき合いたい） 酌み交わしたい

おじいさんのもとへコトブキが現れる。

コトブキ こんばんは。

おじいさん 掃除屋さん？

コトブキ はい。お客様第一が……。

おじいさん 待ってたよ。あがつてあがつて。悪いねえ。こんな押し詰まっ

た時期に。この後、仕事あるの？

コトブキ いいえ、ここが最後の最後です。

おじいさん じゃあゆつくりしていけるよね。さ、さ。まあ飲んでくださいよ。

コトブキ あの、僕、掃除って……

おじいさん 実はね、掃除っていうのは口実なんだ。本当は晩酌の相手がほしくてね……。やっぱりそういうのは違反かねえ？

コトブキ わからないんです。なにをすればいいですか？

おじいさん ただね、一緒に飲んでくれればそれでいいんだ。

コトブキ それじゃあ、いただきます。

おじいさん ありがとう。うれしいよ。

おじいさんとコトブキ、晩酌を始める。

一方、フクと青年がおばあさんのもとへやってくる。

フク　こんばんは。

おばあさん　はーい。……あら、あなた……。

青年　あ！

フク　占いのおばあさんだ。

おばあさん　あなた、お掃除屋さんなの？

フク　そうです。こっちは新入りです。

青年　お蕎麦のお金、ごめんなさい。

おばあさん　いいのよ、いいのよ。それより、おなかすいてない？　今、お

鍋作ったところだから、よかったらご一緒にいかが？

フク・青年　いただきます！

おばあさん　あなたたちはワンちゃんだから猫舌じゃないわよね？

フク・青年　え……！（驚きのあまり絶句）

おばあさん　犬とね、猫をひっかけて（二人の反応を見て）……やっぱそんなに面白くないわよね……。

青年　どうしてわかったんですか？

おばあさん　……私はね、両親を早くに亡くしてから、ずっと一人で生きてきたの。花や鳥や猫や、ワンちゃんたちだけを話相手に、ずっと一人でね……。だからじゃないかしら。ほら、冷めてしまいわ、お食べなさい。

コトブキ　家族やお友達はいないんですか？

おじいさん　うん。奥さんに早く死なれちゃってね。男手ひとつで育てた一人息子も、家を出てったきり帰って来ないんだ。

コトブキ　ひとりぼっちで、かわいそう……。

おじいさん　もう慣れちゃったよ。

コトブキ かわいそうだよ。(泣き出す)

おじいさん (つられて涙声で) 弱ったね。あんたも泣き上戸かい？

フク ひとりでいっぱいごはん食べられていいですね。

おばあさん そうねえ……。 (音楽)

《小さな祈り》

おばあさん たしかにひとりは気ままで気楽

おじいさん たしかにひとりは身軽で自由

おばあさん・おじいさん・青年

けれど心には 穴がぽっかり

冷たい風が 吹くのはなぜ

コトブキ・フク

その穴から 声が聞こえるよ

それは小さな小さな祈り

全員 「あなたがいないとつまらない」って

誰かに言われて 飛んでゆきたい

夢でもいいから

嘘でもいいから

青年 ほんとは嘘じゃ いやだけど

おばあさん (青年に) ずいぶんつらい目に遭ってきたのね。でも大丈夫よ。

ちよつと手を見せて（青年の手のひらをみて）ほら、近いうちにきつとい  
いことがあるわ。

フク おばあさんの手もを見せて。

おばあさん え……？

フク （強引に手をとる）今までひとりぼっちでつまんなかったけど、近い  
うちにきつといいことがありますよ！

おばあさん ……そうだといいわね。

青年 （苦しげに）おなか痛い……。

おばあさん （お鍋の中を見て）どうしましょう、タマネギが入ってたわ！

ワンちゃんにタマネギは毒なのよね？

フク あたし、なんともないけど。

青年 苦しいよお……。

コトブキ 僕、おじいさんの家族になってくれる人、探します！

おじいさん え？

コトブキ 最近、たくさん人間の知り合いが増えたから頼んでみます。商店  
街の怖いおばさんがいいですか？ 仕事のできない会社勤めの人がいいで

すか？

おじいさん 気持ちはありがたいけど、そういう人はちよつと……。それに、  
私には今、家族になってほしい人がいるんだ。

コトブキ どんな人？

おじいさん みんなに希望を与えてくれる優しい人だよ。私の片思いなんだ  
けどね。

コトブキ 行きましょう！

おじいさん ……どこへ？

コトブキ その人をお願いしに。家族になって下さいって。

おじいさん ええ！ ちよつと待ってくれよ！

コトブキ 早く早く！



おじいさん　せめて身だしなみを……。 (あたふたと身支度を始める)

青年　(痛みにうなつて) うーん……。

おばあさん　お医者様を呼びましょうか？

フク　コロ！　しつかりしな！

青年　……父ちゃんに会いたい……。

フク　父ちゃん？

青年　僕、このまま死んじゃうかもしれない……。最後にひとめ父ちゃんに

……ご主人様に会いたい……。

フク　わかった！　連れてつてあげる。おばあさん！　手伝って！

フクとおばあさん、青年を支えながら出かけていく。

コトブキ　まだですか？

おじいさん　ええい！　ままよ！

コトブキとおじいさんも出かけていく。

コトブキとフク、それぞれの同行者を力づけるように歌う。

《コトブキとフクのテーマ》

なんとかなるよね　大丈夫だよね

犬も歩けば　棒にも当たる

ついてないことだってあるけど

いっしょにいるから　大丈夫だよね

五人がばったりと顔を合わせる。

コトブキ あれ？ フクちゃん。

フク コトブキ！

おじいさん (闇雲に) 結婚してください！

おばあさん はい？

青年 父ちゃん……！

おじいさん (青年に気づいて) 一郎？ おまえ、今まで一体どこに……。

おばあさん あなたのワンちゃんだったんですか。

おじいさん ワンちゃん？ これは私のひとり息子で……。

青年 (苦しい息の下で) 父ちゃん、僕、もうすぐ死んじゃうんだ……今までもありがとう。家出したりしてごめんね……。

おじいさん なにを言ってるんだ、一郎！ おまえが死ぬはずなんてあるもんか！ だっておまえは一度死んじゃったじゃないか！

おばあさん 息子さん、亡くなったんですか？

おじいさん ええ、バイクの事故で。(青年に) 一度死んだ人間は、もう死んだりしないだろう？

青年 一郎さんの代わりに、なれなくてごめん……。

おじいさん 一郎……？

フク その子は一郎じゃないよ。その子は……。(コトブキに口をふさがれる)

音楽 ≪ひとつ屋根の下で≫が流れ、青年を見つめておじいさんがつぶやくように歌う。

一郎 (首を振る青年)

一郎？ (首を振る青年)

そうだ おまえは「コロだ」

青年、大きく頷くと、ワンタさんが駆け寄ってきて、青年を犬の姿に戻す。

ワンタ (青年に) 君ね、ただの食べ過ぎなの。

おじいさん (青年を抱きしめ) ごめんな、コロ。おまえは誰の代わりでもないよ。私の大事な、大事な家族だよ。

青年 (嬉しそうに) 父ちゃんの匂いだ！ 酒くさい！

おばあさん さつきは……酔った勢いでおっしゃったのかしら……？

おじいさん 飲んではいませんが真剣です！ こんな私でよかったら！

おばあさんが振り返って辺りを見まわすと、八方から犬たちが顔を出し、ゴーサインを送っている。その励ましに後押しされるように、にっこりとうなずくおばあさん。

拍手で祝福する犬たち。

幸せそうに歌うおじいさんとおばあさんの二人。

《ひとつ屋根の下で》

二人 あなたのわたしの 涙の夜が明けて

二人と 一匹は ひとつ屋根の下で

犬たち 今ら 手をつないで 始めましょう

新しい家族の暮らし

うれしいことも かなしいことも

これから みんな 分け合って

二人 あなた百までわたしや九十九まで

犬たち いっしょに

二人 ともに白髪の生えるまで

犬たち

いっしょに いっしょに

全員

ひとつ釜の飯を食べて

ひとつずつ思い出つくる

ひとつ屋根の下で

暗転。

11

大晦日の夜。並んで座っているコトブキとフク。

コトブキは、予定の書かれた十二月のカレンダーを眺めている。

フク 静かにしてよ、コトブキ！

コトブキ ……なんにも言っていないよ。

フク ……また心の声か。

コトブキ おなかすいたんだね。

フク うん……。

コトブキ (カレンダーを嗅ぎ) もうお家の匂いがしないや……。全部、終わっちゃったね。

フク そうだね。

コトブキ ……ずっと訊きたかったことがあるんだけどさ……。

フク なに？

コトブキ 掃除って、一体なにをするの？

フク ……。(大声で) 知らないの？

コトブキ ……。フクちゃんも……？

ため息と沈黙。

コトブキ ……もうすぐ除夜の鐘が鳴るね。

フク (気を取り直して) 犬に戻ったらさ、今度は新しいご主人をみつけないきゃね！

コトブキ (「そうだね」と言うつもりが、ふと思いたって) ……怖いこと言  
っていい？

フク なに？

コトブキ ……ご主人みつけるんならさ……。

フク うん。

コトブキ ……犬に戻る前の方がよくない？

フク ……。

コトブキ 今なら人間と話だってできるんだし……。

フク ……なんで早く言わないの！

コトブキ 思いついた途端に言ったつもりなんだけど……。

フク のんびりお座りしてる場合じゃないよ！

そこへ加奈と蕎麦屋のいでたちをした若い男が現れる。

若い男 ずいぶん探したよ。

フク (二人を交互に指差し) あれ？ あれ？

加奈 彼がお店を継いでくれることになったの。もうお父さんたら喜んじや  
って！

若い男 これもあの時、二人に励ましてもらったおかげです。

加奈 お礼に年越しそばを持ってきました。

フク ありがとう！

コトブキ (若い男に) あの、犬は好きですか？

若い男 俺が好きなのは加奈だけだから。

加奈 やだ、もう。

次に節子が花束やら酒やらお菓子の箱やらを持って現れる。

節子 (加奈たちに) あら、おそろいで。(若い男を見て) よく似合うじゃない。

加奈 でしょう？

若い男 俺、残りの出前、いってきちやうよ。(退場)

加奈 早く帰ってきてね！

節子 (見送り) まるでお父さん見てるみたい。よかったわね、加奈ちゃん。おめでとう。

加奈 節子さんもおめでたですって？

節子 夏祭りの頃には生まれるわよ。そういう大事な体の人間に、普通、おつかいなんて頼む？(コトブキとフクに) これ、三婆……じゃなくて、天会からお礼です。(加奈に) 「妊婦は病人じゃない」なんて言っちゃって、自分たちは初詣に出かけてったのよ？

コトブキ お礼ならこの間もらいましたけど。

節子 あなたがたのオブジェが若い女の子に大好評だったんですよ。で、その子たちと商店街のもてない息子たちが……(堪えきれずに吹出し) なぜかグループ交際を始めたんです！

フク あの、かわいい犬は……。

節子 かわいいわけではないじゃない。ちんくしゃ揃いよ！でもみんな器量がよくない分、きつといいお嫁さんになると思うの。なんとしても結婚に結び付けてやるって三婆も大はりきりで。

加奈 (コトブキとフクに) 感謝してましたよ。あなたたちのおかげだって。

そこへすっかりできあがった内藤と高橋が寿司の折詰めを持ってやってくる。

内藤 あけましておめでどう！

高橋 まだ早いですよ、社長！

内藤 いやあ、高橋君とは意気投合しちゃってね。こんなうれしい出会いがあつたのも、あなたたちのおかげですよ。これ、お土産です。

フク 社長さん、犬、好きですよね？

高橋 よ！ 社長！ この太っ腹！ 借金だらけのくせに！

内藤 それは言わない約束だろう！（大笑い）

コトブキ ポチの他にもう二匹……あの……。

と呼びかけても、酔っ払いの二人は大笑いしながら肩を叩き合っていて、話にならない。

そこへ蕎麦屋の主人が現れる。

加奈 もう帰ってきた！

父 どこまで出前に行ってたんだ！ 年が明けちまうだろ！

加奈 （あからさまにがっかりして）なんだ、お父さんか……。

父 父親に向かってなんだとはなんだ！

節子 よかったですねご主人、いい跡取が見つかった。

父 俺は見習いを雇っただけで、結婚を認めたわけじゃねえよ。

加奈 つきつきりで蕎麦打ち教えてるくせに。

フク あの、犬を……。

父 中途半端は嫌えなんだよ！

加奈 はいはい。

父 「はい」は一回だ！ 大体なあ！ 夜の夜中にでっけえりボンを頭にくっつけて、結婚を申し込んでくる野郎なんか俺は……

加奈 もういいじゃないの、その話は。

フク （コトブキに）誰も聞いてくれないよ。

コトブキ どうしよう、もう時間が……。

除夜の鐘が鳴り始める。

同時にワンタさんが、犬たちP、E、ハ、二、ホを従えて、歌いながら登場。

ワンタ ♪とーしーの、はーじめーの たーめーしーとてー♪

ワンタさん、コトブキとフクを犬の姿に戻す。

人間たちはそれに気づく様子もなく、相変わらず自分たちの世界を保ったまま。

犬ハ お帰りなさい。

犬二 結局、新しいご主人は見つからなかったね。

犬ホ (人々を眺め) あの人たちに飼われるのもどうかと思うけど。

犬P (主人を心配して) ああ、またあんなに酔っ払って。奥さんに怒られるのに。

犬ハ 学習しないのかな？

犬E タマネギ食べてるせいかな？

フク みんな、ごめんね。

犬ホ なあに？

フク せっかく人間にしてもらったのに、あたしたち、お仕事できなかつたよ。

ワンタ そうでもないんじゃない？

コトブキ いいえ、全然ダメでした。ワンタさんはご存じないんです。

ワンタ ご存じだよ。見てたからね。

フク いつですか？

ワンタ いつもだよ。ゼーんぶ見てたよ。なかなか仕事をしたと思うけど



ね。

そこへお重を持ったおばあさん、おじいさん、コロ（青年）が現れる。

おばあさん　こんばんは。

内藤　ああ、あなた！　ありがとうございます！　占い当たりましたよ！

おばあさん　え？

加奈　あたしも当たりました！

節子　あたしも！　今、三ヶ月なんです。

おばあさん　まあ、それはそれは。

おじいさん　私も当たったよ。確かにいいことがあった。素晴らしくいいことが。（コトブキとフクに）君たちのおかげでね。

コロ　コトブキ、ムクちゃん。

フク　フクだよ！

コロ　迎えに来たんだよ。

おじいさん　私たちと一緒に暮らそう。

コロ　これからずっと一緒だよ！

コトブキ　僕たち、掃除の仕方也不知道役立たずだけど……。

おばあさん　みんなにいいことをつれてきてくれたのはだあれ？

フク　おばあさんでしょう？

おばあさん　あなたたちじゃないの。役立たずなんかじゃないわ。役立たずだって構わないのよ。私たちのうちにいらいっしやい。

フク　コトブキ！

コトブキ　フクちゃん！

コトブキ・フク　いいことがあったね！

高橋　（おばあさんの持っているお重を見て）それ、ひよっとしておせちですか？

おばあさん　ええ。たくさんありますから、よろしかったらみなさんで。

加奈 お蕎麦もあります！

節子 お酒もケーキもありますよ！ 味の保証はしないけど。

内藤 よーし、新年会だ！

フク (空を見て) あ！

コトブキ 雪だ……。

降る雪を見上げるみんなの嬉しそうな顔。

その笑顔のまま、歌が始まり、やがて出演者全員が出てきて共に歌う。

《涙で頬が傷だらけ》

私たちは 走りつづける

師走の声を 聞きたびに

私たちは あわてつづける

年の瀬が 迫るたびに

おとしし去年も そして今年も

多分懲りずに また来年も

片付けては やっぱり散らかし

思い出しては うっかり忘れ

涙で頬は傷だらけ

それでも そうして そこにあなたが

涙で頬は傷だらけ

いつでも いっしょに いてくれるから

私たちは 許し続ける

除夜の鐘を 聞きたびに

私たちは 夢見続ける  
素晴らしい年の 幕開けを

手に汗握り 爪に火灯し  
藪をつついて蛇を出し  
弱り目たたり目 踏んだり蹴ったり  
骨折り損の くたびれ儲け

涙で頬は傷だらけ  
それでも そうして そこにあなたが  
涙で頬は傷だらけ  
いつでも いっしょに いてくれるから

私たちは 微笑むでしょう  
除夜の鐘を 聞きたびに  
私たちは 夢見るでしょう  
素晴らしい年の 幕開けを

なんの準備も できないままに  
ようこそ新年 どうぞよろしく  
あけましたら あけましたら おめでとう

おしまい。